

-131- 甲状腺機能亢進症における¹³¹I治療と遠隔成績について

金大 核

○ 桑島 章, 杉原政美, 小泉 潔,
分枝久志, 久田欣一

最近約7年間に¹³¹Iで治療した甲状腺機能亢進症242例(男65例, 女177例)について治療前の検査成績,¹³¹I投与量とその予想照射線量と治療後の甲状腺機能検査との関係を検討した。さらに一部の症例では¹³¹Iの治療中の有効半減期の測定によつて計算した照射線量との関係についても検討した。

¹³¹I投与量は概ね2~5 mCiであり照射予定量は3000~6000 radであるが, 以前の症例ほど投与量は多く最近は減少する傾向にある。

抗甲状腺剤との併用については,¹³¹Iの初回治療前に使用した既往を有する症例では治療期間および総投与量と¹³¹Iによる治療成績との関係を検討した。¹³¹I治療後に抗甲状腺剤を併用した例では¹³¹Iによる治療直後より用いた場合にその治療効果の判定が困難であるが,¹³¹I単独での治療効果が不十分であつた例に対して数ヶ月後以降に併用することは以前の抗甲状腺剤治療における成否にかかわらず機能亢進症の完全寛解に有効であつた。

¹³¹I治療後の経過を観察できた例は1年以下104例, 1年以上120例であり¹³¹I投与量および照射線量と機能低下症発生率との間には明確な関係を判定し難かつたが, これは投与量および照射線量が大きい傾向にある古い症例における経過を観察できた例が比較的少ないことにもよると考えられる。